



開校 150 周年

# 菅刈だより

学校ホームページアドレス <http://www.meguro.ed.jp/mesgkreh>

令和 8 年 1 月 30 日  
第 10 号  
目黒区立菅刈小学校  
校 長 鈴木 稔

## 食べる力は生きる力

副校長 山形 美和

寒い寒いと言っている間に、いつの間にか2月を迎えようとしています。2月4日は、立春ですが、まだまだ寒い日が続きます。よく食べ、動き、休養をしっかりとって寒さを乗り越えたいものです。

さて、1月24日から30日までは、全国学校給食週間でした。菅刈小学校では、この週間に明治のころ、大正のころ、昭和のころの給食を、代表的なメニューで振り返る献立にしていました。学校給食が始まって136年。その歴史を実際に献立で振り返ると、「子どもたちのために」という先人の思いが受け継がれ、素晴らしい進化を遂げていることが分かります。



文部科学省のホームページには、学校給食週間に関し以下のような記述があります。

我が国における学校給食は、明治22年に始まって以来、各地に広がっていきましたが、戦争の影響などによって中断されました。戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に学校給食の再開を求める国民の声が高まるようになり、昭和21年6月に米国のアジア救済公認団体から、給食用物資の寄贈を受けて、昭和22年1月から学校給食が再開されました。

昭和21年12月24日に、東京都内の小学校でアジア救済公認団体からの給食用物資の贈呈式が行われ、それ以来、この日を学校給食感謝の日と決めました。昭和25年度から、学校給食による教育効果を促進する観点から、冬季休業と重ならない1月24日から1月30日までの1週間を「学校給食週間」としました。

子供たちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など、健康状態について懸念される点が多く見られる今日、学校給食は子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。学校給食週間においては、このような学校給食の意義や役割について、児童生徒や教職員、保護者や地域住民の理解を深め関心を高めるため、全国で様々な行事が行われます。

1月29日には、学校給食運営協議会を実施し、目黒区教育委員会、学校、PTA役員とで情報交換をしました。日常の給食でも、様々な時期の行事食や地域の食、世界の食など献立を工夫しています。

食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるということは、食育の目的のひとつです。食育の取組は、学校だけで行っていくものではなく、家庭や地域の役割もとても大きいです。一日のエネルギーとなる朝食をしっかりとることや家族で食卓を囲んで団らんすることなど、家庭での毎日の食事は、子どもたちにとって欠かせないものです。菅刈の地域では、フードドライブや子ども食堂といった取組も行われています。食育を通じて、育む「食べる力」には、次のようなものがあります。

- ・心と体の健康を維持できる ・食事の重要性や楽しさを理解する
- ・食べ物の選択や食事づくりができる ・一緒に食べたい人がいる（社会性）
- ・日本の食文化を理解し伝える ・食べ物やつくる人への感謝の心

これらの力は、単に食事の時間だけでなく、私たちの日常生活全般に影響を与える重要な能力です。「食育」を通じて、生涯にわたって「食べる力」すなわち「生きる力」を育むことをこれからも大切にしていきたいものです。



## 2月行事予定【 】…学年

<2月の生活目標>  
感謝の気持ちを伝えよう

<2月の健康目標>  
心と体の健康を考えよう

日	曜	学 校 行 事 等
1	日	
2	月	全校朝会 人権尊重の日
3	火	水曜時程 委員会活動
4	水	安全指導
5	木	児童集会 新一年保護者会 水曜時程【1～3】
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	全校朝会 薬物乱用防止教室【5】
10	火	水曜時程 クラブ活動 クラブ見学【3】
11	水	建国記念日
12	木	
13	金	歯科指導【3】 和楽器体験【6】
14	土	
15	日	
16	月	全校朝会 卒業遠足【6】
17	火	たてわり班活動
18	水	小中連携の会（菅刈小）
19	木	長なわとび集会 水曜時程
20	金	
21	土	学校公開（生活・総合発表会）
22	日	
23	月	天皇誕生日
24	火	振替休業日
25	水	保護者会【5・6】
26	木	音楽朝会 水曜時程 保護者会【1・2】
27	金	保護者会【3・4・あ】
28	土	

※2月は、予告なしの避難訓練があります。

### 開校 150 周年コーナー

開校 150 周年を記念して、「菅刈小 150 周年記念年末ジャンボ宝くじ」を行いました。「1日校長先生賞」「校庭貸し切り賞」など様々な賞が児童に当選し、実施されています。

先日、「校長室でランチ賞」が実施されました。各学年で当選した児童が校長室で楽しくランチを行いました。これからも、いろいろな賞が実施されます。楽しみですね。



### 【校内研究のまとめ】

研究主任 渡邊 真平

今年度のテーマを「自己調整力を高める教育活動の創造」とし、子どもたちが自分で自分の学びを調整しながら学習を進めることができるような取組をしてきました。菅刈小学校では①40分授業の充実、②自由進度学習、③スタディタイム、この3つを軸として研究を進めました。

「自由進度学習」とは、単元を通して、学習計画表を見ながら自分自身のペースで学習を進めるというやり方です。子どもたちは、学習資料、学習環境、進め方などを自分で選択し、ゴールに向かって学んでいきます。学ぶ中で、「最初は不安だったけど、どのように進めればよいか分かってから楽しく自分のペースで取り組めた。」「早く進めた分、発展的な学習にたくさん取り組めてよかった。」といった感想がありました。

「スタディタイム」では、自分の興味・関心に応じてテーマを決め、調べ学習を進めます。学習計画を立て、学習を進め、振り返るという過程を繰り返すことで、めあてや自分の学び方を客観的に振り返り、次の学びに生かすことのできる児童が増えました。

引き続き、子どもたち一人一人の「自己調整力」を高められるよう、研究を進めていきます。

### 【たてわり班活動】

特別活動主任 石川 裕久

菅刈小学校では、たてわり班活動、委員会活動、クラブ活動などの「特別活動」を通して、子どもたちの健やかな成長を支えています。特別活動は、集団生活の中での実践的な活動を積み重ねることで、よりよい人間関係を築く力や、自己の生き方を深める態度を養うという重要な意義をもっています。

その中でも、児童会活動のひとつである「たてわり班活動」は、異学年との交流を深める大切な取組です。1年生から6年生がひとつの小集団の班になり、年に9回、昼休みに校庭や体育館、屋上など様々な場所を使って仲良く活動します。最大の特徴は、児童が主体となって運営することです。6年生はリーダーとして遊びの計画やまとめ役を担い、今年度からは5年生も上級生の自覚をもち、6年生と共に活動を支えています。下級生の意見を汲み取りながら準備や声掛けを行う経験は、集団全体を考えて行動する力を一層育みます。下級生もまた、優しく接してくれる上級生をお手本に、リーダーシップや思いやりの心を学びます。

こうした交流は、教科の学習だけでは得られない社会性や豊かな人間性を育む貴重な機会です。今後も子どもたちが主体的に関わり合い、学校全体の絆を深めていけるよう、教職員一同で温かく見守るとともに、指導、助言を行ってまいります。